

## 発達支援体制の充実

アナ： 『市長が語る 2021 三島』 第 17 回の今日は、「発達支援体制の充実」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願ひします。

市長： よろしくお願ひします。

アナ： 三島市の発達支援といえば、「たんぼぼ」や「にこパル」といった施設の名前をお聞きしたことはありますが、どのように発達支援体制を整備されてきたのかについて教えていただけますか。

市長： はい。

三島市では、昭和 57 年から発達支援体制の整備に向けた取り組みを始めました。

その後、様々な事業を継続して実施しておりましたが、お子さんの発達や成長を心配される保護者の方からの相談や支援に関するニーズが年々高まってきたことから、平成 23 年度には療育支援室を設置しました。

そして、さらなる体制の充実のため、平成 30 年度に発達支援課を立ち上げ、現在、正規職員として臨床心理士を採用するとともに、相談支援を担当する「三島市発達支援センター たんぼぼ」と、未就学のお子さんに療育の機会と場を提供する「三島市児童発達支援事業所にこパル」を運営しています。

アナ： 約 40 年も前から、発達支援体制の整備に取り組んでいらっしゃるんですね。発達支援は、早い時期に課題を発見して支援につなげていくことが重要とお聞きしますが、そのために何か工夫されていることはありますか。

市長： はい。

発達支援は、早期発見・早期支援が大切なことから、母子保健や乳幼児健診を担当する健康推進部、小・中学校の学齢期の子供たちに関わりを持つ教育委員会などの複数の部署や関係機関と連携して支援に取り組んでおります。

また、その子の成長に合わせた継続した支援ができるような職員配置にも努めています。

アナ： 発達支援体制を充実させるための具体的な取り組みについて教えてください。

市長： はい。

これまで、学齢期に向けた支援に関わる職員は、教員経験者である特任指導主事 1 名でしたが、昨年度からは、新たに現職の教員 1 名を発達支援課に配置し、2 名体制で相談業務を行っております。

これにより、小・中学校と今まで以上に強く連携した丁寧な対応が可能となりました。

また、学校への巡回訪問も行い、課題や悩みのある小・中学生への支援も本格的に動き出しています。

アナ： 2名体制となったことで、小学生、中学生に対する相談体制の充実が期待できますね。その他にも何かありますか。

市長： はい。

「にこパル」は、平成27年10月に梅名の「旧八反畑幼稚園」の施設等を利用して開設し、平成28年4月からは、静岡県の指定を受けて、児童発達支援事業所として運営をしてきましたが、本年度から、錦田こども園内の錦田幼稚園棟2階に移転いたしました。

現在は、3歳から5歳までのお子さん、23人が通っております。移転によって、同じ敷地内にあり、相談支援を行う「たんぼぼ」と連携しやすくなったため、「にこパル」での療育支援をより丁寧に行うことができるようになりました。

アナ： 移転による相乗効果が期待できるということですね。

発達支援体制の今後の方向性をどのようにお考えですか。

市長： 「たんぼぼ」は、乳幼児期、学齢期、成人期といったライフステージに応じた切れ目のない支援を行うための中核的な機関として、保健・福祉・教育・就労の各分野の機関や組織と連携し、継続して専門的で総合的な相談支援を行うことを目指しております。

発達障がい の状況、生活上の困難さが表れる時期、またその表れ方は、人によってさまざまですし、取り巻く周りの方々の理解度も様々です。

「たんぼぼ」では、お困りの皆さんが相談したいと思ったときに、気軽に相談できるような体制づくりをさらに進めていきたいと考えています。

そして、「にこパル」につきましては、錦田幼稚園や錦田保育園と交流する機会がありますので、そのような機会を通じて、子どもたちだけでなく、保護者の方や職員も共生社会や多様性に関する認識を深めてもらいたいと考えています。

アナ： 豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。